

【全体概要】 近年、露地ナスは初期投資が少なく、価格が安定しているため、夏季の主要品目として見直されている。しかし、薬剤抵抗性害虫の発生で農薬による防除だけでは安定生産が難しい。そこで、試験研究機関が開発した土着天敵保護利用によるIPM技術を活用し、露地ナスの安定生産技術を確立する。また、実需を含む関係機関と連携して露地ナスの生産拡大を図る。

新品種・新技術等の概要

●農業試験場が開発した土着天敵保護利用によるIPMの新技術

露地ナスの害虫アザミウマの土着天敵ヒメハナカメムシ(図右上)などを圃場に誘引し、温存するためにマリーゴールドやソルゴー(図左側)の天敵温存植物を圃場内に栽植することで継続的かつ効果的に害虫を防除することができる。



主な取組内容

【実証ほ設置】(7普及指導センター、7ほ場)×2か年(H29-H30)

【現地検討会】(3回/年)×2か年 計6回

専門技術指導員が中心となり、普及指導員、農林業総合試験場を参集。各産地の現地実証圃を巡回し、IPM技術に関する情報共有と試験場を講師に、技術向上を図る。実証ほ設置数:7ほ場(7普及指導センター各1ほ場)

【実需との意見交換会】(1回/年)×2か年 計2回

【実証試験 設計検討会】(1回/年)×2か年 計2回

各産地におけるIPM実証圃設計書を再検討、確認。

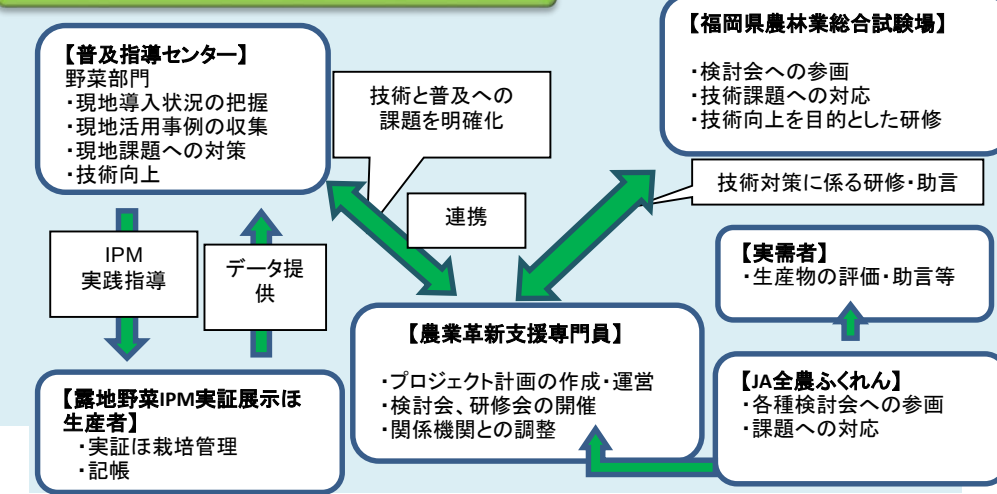
【実証試験 成績検討会】(1回/年)×2か年 計2回

現地検討会の結果をもとにIPM実践マニュアル作成検討会を開催。

【先進地調査】H29 徳島県、H30 群馬県、奈良県

各県の農業試験場、露地なすIPM実践ほ場を視察調査、意見交換など。

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の展開

○IPM技術を活用した露地ナス栽培戸数の増加

IPM技術導入率(導入戸数/全戸数) 開始前 H28:0%

H29:13%(14/109)、H30:37%(37/100)

○新技術(IPM技術)の露地なす産地づくりへの活用

夏季の主要品目である露地なす栽培に新技術(IPM技術)を導入することにより、農薬抵抗性害虫による被害と暑熱期の害虫防除にかかる心身の負担が軽減されることから、安定生産が可能になり、新技術に取り組む生産者が増加するとともに産地の維持発展に寄与した。